

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674000209		
法人名	社会福祉法人 未生会		
事業所名	グループホーム ラポールしらかば 1F		
所在地	京都市西京区榎原盆山15-8		
自己評価作成日	H25・1・10	評価結果市町村受理日	平成26年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2674000209-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2674000209-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年2月5日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念である「帰家穏坐」を基本に、穏やかに安心して座れる場所、静かに横になれる処、ゆっくりほっこり過ごす事が出来る「家」「家庭」のような居場所を作る。楽しみを語らう相手になったり、時には家族のように寄り添い、お互いの信頼感に基づいた対人関係を築き利用者一人一人が、その人らしく暮らしている事を実感していただけるよう職員全員心がけている。地域の行事に参加したり交流をする事で事業所の思いを理解していただき、地域の一員として貢献していきたい。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は地域との関わりを大切に、敬老会や運動会、クリスマス会などの地域行事に参加したり、近隣の方から野菜などが届いたり、正月の締め縄飾りを作ってもらうなど、地域との交流を深めています。隣に住むオーナーとの関わりも強く協力的で多くの援助をしてもらっています。また、下肢筋力が衰えないようリハビリの医師に診てもらいながら健康器具を設置し足腰を鍛えADLの低下を防いでいます。職員間の連携は良好で常に連絡を密に取り合い、職員会議等も勤務の微調整を行い多くの職員が出席出来るよう配慮しています。職員は利用者の生活リズムや思いを尊重し、どの利用者に対しても同じ気持ちで明るく接するよう心がけており、利用者も安心してゆったりと過ごされています。外出行事も徐々に増え、家族にも声を掛けるなど楽しみのある暮らしとなるよう支援しています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に法人理念「帰家穏坐」を掲示し、事業所としての理念を掲げ会議等で話し合い職員全員共有して日々の業務繋げている。	法人理念を基に職員間で話し合い利用者本位を基本とする事業所の目標を理念として掲げ、地域への個別外出や地域行事等へ参加することにより事業所が地域の拠点となり、利用者が地域の中でその人らしく暮らせるよう取り組んでいます。職員会議にて理念の振り返りや確認を行い、職員間で共有しながら理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から利用者と一緒に回覧板を持って行ったり、スーパーへ買い物に行ったりしている。地域のクリスマス会や敬老会にも参加し交流している。	自治会に加入し回覧板等で地域の情報を得ています。敬老会や運動会、クリスマス会等の地域行事に参加したり、隣接するオーナーのログハウスで行う餅つきに参加してもらうなど多くの交流の機会があります。近隣の方からタケノコが届いたり正月のしめ縄を作ってもらうなど地域との良好な関係が築かれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議等に参加して認知症の理解を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催して、事業所としてのサービスの実践状況や利用者に対する支援の取り組みを報告し検討したり意見をいただくなど運営に生かしている。また、出席出来ない家族には会議録を郵送している。	会議は、家族や民生委員、地域包括支援センター職員等の参加を得て、隔月に開催しています。利用者の状況報告を行い家族からの報告を受けたり意見交換の場となっています。ホームでペットを飼うことについての意見を受けペットの苦手な方のために柵を設置するなど出てきた意見は検討しサービスの向上等に反映させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	隔月に開催される西京区調整会議や市老協地域密着型サービス事業会議に出席してサービスの取り組み状況を伝えたり、意見交換をしている。	運営推進会議の議事録を直接届けたり、行政主催の会議等に参加するなど、関わる機会も多く連携を図っています。また、更新時の申請のために出向いたり、何かあれば相談するなど良好な関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等で定期的に意見交換をしたり、出入り口等に施錠せず、外へ出て行かれる利用者を自由にかつ安全に送りだせるよう職員、家族等で話し合い共有している。	身体拘束についての外部研修に参加し伝達講習を行い、全職員に周知できるよう取り組んでいます。玄関は開錠し運営推進会議等で相談しながら利用者が自由に出かけられるよう拘束のないケアに配慮しています。拘束に繋がるような言葉掛けがあれば、個々に注意をしたりミーティングや申し送り等で話し合いを持つようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会へ参加している。定期的に会議等で意見交換して正しく理解するよう努めている。		

グループホームラポールしらかば(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同上		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に来園して頂き施設内を見学していただいたり、納得いくまで話を聞き説明をする。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを実施、意見・要望等や改善案等をたよりやしらかば通信等で情報を公開している。	家族会や面会時に意見や要望を聞くようにしています。外出後の水分補給等についての要望があり、お茶、コーヒー、水など好みのものをいつでも飲めるようサーバーを設置したり、トイレのカーテンについても改善に向けて検討するなどサービスに反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が個人面談やミーティング等で話す機会を設けている。管理者会議にて意見や提案を伝えている。	職員はミーティングや日常業務の中で多くの意見を出し合い、その都度検討したりミーティングの時間を設け少しでも話し合う機会が持てるようにしています。管理者は年に2回個人面談を行い意見や要望を聞いたり、職員個々に目標を立ててもらい年度末に振り返りを行うなど様々なことを試みながら職員の意見を反映させるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が個々に個人目標を設定し、達成出来る様個人面談等で助言している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部の研修会を回覧板で案内する。定期的に勉強会を開催する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型部会へ参加している。勉強会後の親睦会にも積極的に参加して意見交換している。		

グループホームラポールしらかば(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族より希望・要望・生活歴を聴いて情報を収集して馴染みの関係づくりを築いていけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせ時の説明や見学、申請時に話を聴くなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において出来る事はして頂き、出来ない所は声かけなどで出来るよう支援する。利用者がその方らしく生活出来る様に介護者の目線から利用者の視点に立つ		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を通して様々な情報を共有する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も友人や近隣の方が訪問出来たり、一緒に外出したり、年賀状や手紙のやり取りをしたり入居前と変わらず馴染みの関係を継続出来るよう支援している。	友人や近隣の方の来訪があります。友人と一緒に外出された利用者を駅まで迎えに行ったり、馴染みのスーパーやデパートへの買い物の支援や墓参り、美容院への送迎など個々の馴染みの関係が継続できるよう支援しています。また、手紙のやり取りができるようにも支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数のグループにわかれて外出したり、日常生活でも利用者同士で出来る事を支援する。		

グループホームラポールしらかば(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族会への参加や定期的に来園され利用者とも交流されている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で思いを聴いたり、利用者同士の会話の中でもヒントがあるのでとはと耳を傾けている。	初回の面接で利用者や家族から以前の暮らしや好み、意向等を聞き入居前に利用していたサービス事業所等からの情報を得て思いの把握に繋がっています。入所後は利用者との日々の関わり、会話や表情等から思いを汲み取り記録に残し職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族や友人担当ケアマネや入居前のサービス事業所より聴きとり生活しやすい環境作りに努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活表、個人記録等で職員間やかかりつけ医と情報を共有して把握する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回職員会議、ケース会議等で話し合い随時変化がみられれば家族、主治医、リハビリ等の関係者と話し合う機会をもうけている。モニタリングは3ヶ月毎にしている。	本人の思いや家族の意向を基に職員間の意見を出し合い、介護計画を作成しています。3ヶ月毎にモニタリングを行い、状況に変化がなければ6ヶ月後に見直しを行っています。見直しにあたっては初回アセスメント時の状況に変化があれば再アセスメントを行い、家族や医師の参加するサービス担当者会議を開催し、現状に即した計画となるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の日常の様子等を記録しケアプランに沿った支援をしている。職員の休憩時間等の何気ない会話などで気づきを共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況の応じ通院や外出等柔軟に対応している。		

グループホームラポールしらかば(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で暮らしている事を実感していただけるように自治会や近隣のイベント等に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ふれあいノート等で情報の共有を図り、希望を聞きながら医療方針を決め、必要に応じて他の医療機関との連携をしている。	入居時に以前からのかかりつけ医の継続も可能であることを説明し、受診は状況に応じて職員が支援することもあります。かかりつけ医と協力医は日頃から情報交換を行うなど常に連携を図っています。2週間に1度の協力医の往診や週に1度の訪問看護もあり、薬の変更や体調の観察など往診結果については家族に書面を見てもらったり郵送するなど報告しています。協力医とは看護師を通して24時間連絡できる体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の状態や医療面で気になる事があれば、24時間訪問看護師に相談出来る体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はかかりつけ医からの情報提供や退院時には病院にてのカンファレンスに出席して、主治医、ケアワーカー、家族との意見交換をして情報の共有を図る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医、職員との面談にて情報を共有して、家族、本人の希望に沿い方針を明確にしている。	入居時に事業所の看取り指針を基に説明を行い、緊急時や終末期においてどのような支援を行うのか、家族と話し合い利用者毎の対応についてのマニュアル作りを検討し個人カードを作成しています。ホームでの看取りの経験もあり職員の自信に繋がると共にカンファレンスで振り返る機会を持ち今後の看取り支援に繋げています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々に緊急・急変マニュアルを作成して対応している。変更があればその都度差し替えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加したり、年2回の避難訓練を実施している。	年に2回避難訓練を実施し、1回は消防署員よりパワーポイントを使用しながら指導を受け、1回は事業所独自で夜間を想定し通報や初期消火、避難誘導の訓練を行っています。訓練の内容については運営推進会議で報告し、地域とは何かあった場合は協力をしてもらうという確約をとっています。地域の防災訓練にも参加しています。	

グループホームラポールしらかば(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格や思いを尊重し、利用者の立場に立って支援する事また個人が特定できるような不適切な言動や対応をしないよう心がけている。	年1回事例を挙げながら話し合う機会を持っています。常に第三者が見た時やその人の立場に置き変えて考えながら、不快な言葉掛けや対応はしないよう心がけ、不適切な言動が見られた場合はその都度注意をしたり、ミーティングや会議などで話し合うようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現できる方はもとより、意思疎通の難しい方も表情や言動等日々に関わりの中で思いを汲み取る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態をみて、職員の日線ではなく利用者の視点に立ってその日を過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを聞いて一緒に洋服選びや買い物へ行く、馴染みの美容院への送迎もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に献立を決めたり、一緒に買い物へいく、又配膳や後片付けや食器洗い等個々の出来る事をしていただけている。利用者個々の力に合わせ形態やメニューもその都度変更している。	献立は利用者の好みを聞き乍ら立て、一緒に買い物に出かけています。テーブル拭きや茶碗洗いなど利用者は出来ることに携わり、職員と共に食卓を囲み同じものを食べ会話が楽しめるようにしています。外食や出前の他にもウッドデッキでお茶をしたり駐車場でおにぎりやバーベキューをするなど食事が楽しみなものとなるよう、様々な工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の好みや状態に合わせて量や形状の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医と連携して出来る方には声かけして出来ない方には職員が対応している。		

グループホームラポールしらかば(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記録で個々の排泄パターンの把握に努め、個々に合わせた仕草や表情を読んでトイレ誘導する。出来ない部分を介助してなるべくトイレで排泄できるよう支援している。	排泄記録により個々の排泄パターンを把握し、その人に合わせた声掛けや誘導を行っています。出来るだけ不快な思いがないよう心がけ、失敗が減ることにより紙パンツから布の下着に移行する方もあります。紙パンツの種類やパッドの形態など個々に合ったものを使用するよう工夫しながら自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表、水分・食事摂取表等でかかりつけ医と情報の共有を図り、服薬の調整や食事の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿えるよう曜日や時間を決めてしまわない。シャンプー等も個人の好きな物を使用する。	入浴は少なくとも週2、3回を目途に支援し、曜日や時間など希望に沿うよう努めています。湯は毎回入れ替え衛生面にも配慮し、柚子湯等の季節湯や入浴剤を使用したり、シャンプー、石鹸等好みのものを使用するなど楽しみながら入ってもらっています。拒否される場合は声掛けやタイミングを計りながら無理強いないで気持ちよく入ってもらえるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じてなるべく本人の希望に沿うよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局と意見交換したり、服薬忘れが内容チェックをし個々の服薬状況等を共有し職員全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の思いや力を把握して日常生活において得意な事は手伝っていただき、喫茶、外食等の楽しい事や好きな事が出来るよう支援する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の思いを聴き出来る限り希望に沿えるよう、また、個別やグループでも外出出来るよう支援している。	天気の良い日には犬の散歩や食材の買い物等、できるだけ外に出る機会を作っています。また、初詣やドライブを兼ねて桜や紅葉を見に行くなど季節を感じられる外出支援を行い家族にも声を掛けています。誕生日の食事外出や喫茶店などグループや個別の外出支援にも取り組んでいます。	



グループホームラポールしらかば(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々の状態や力を把握して、財布を所持してもらう、家計簿を付けてもらうまた、買い物時には支払ってもらうよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外部への発信・着信電話の取り次ぎ、子機を使用して居室での通話をしてもらう、手紙等のやりとりの継続を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓の椅子は個々の状態にあった物を使用したり、加湿器や霧吹きで湿度の調整をしたり又リビングとトイレの温度差をなくすよう暖房機を設置するなど工夫している。	共用空間では利用者が好きな場所で過ごせるよう随所にソファを設置し、寛いで過ごせるよう工夫しています。利用者同士の関係に配慮し食事時にも場所を決めずその時の気分で座ってもらっています。また、季節感のある貼り絵や花などを飾り、利用者と一緒に毎日掃除を行い清潔保持に努めています。加湿器を適所に置き、霧吹き器なども利用しながら温室度の調整を行い居心地よく過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方とお茶が飲めるようテラスにテーブルとイスを置いたり、等個々の利用者がくつろいだり、音楽を聴いたり出来るよう家具の配置など工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、本人、家族の希望を聴き使い慣れた物や馴染みの物を持ってきてもらう。状況に応じて加湿器、電気あんか、エアマット等使用している。	居室には、使い慣れたタンスやテレビ、衣装ケース、仏壇などを持ち込み、利用者が暮らしやすいよう家族が配置をしています。家族の写真や自身の作った作品などを飾り安心して過ごせるよう支援しています。また、ベッドの高さに配慮したり、畳に布団を敷いて休まれるなど希望や習慣に合わせ居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の利用者の状態に応じた		